

■ 取税人や罪人

イスラエルがローマの植民地支配を受けていた時代、取税人はローマ政府の為に働く人々でした。ユダヤ人は、取税人がローマ政府を助けていると考えていました。さらに、取税人たちは不正な方法で自分の利益を取っていたので、取税人のことを罪深いと思っていました。罪人と同じ類とされていて、福音書には「取税人と罪人」という表現がよく出てきます。

■ パリサイ人や律法学者

パリサイ人は、厳格に律法を守り、模範的な信仰生活を送りました。ユダヤ人の間で尊敬され、社会でも影響力がありました。

律法学者は、律法を研究して教えたり、律法を解釈して適用したりする専門家でした。社会的には指導者のような立場にいました。

■ メッセージのポイント

イエス様は、取税人や罪人と一緒にいて、彼らとともに食事をし、交流していました。パリサイ人や律法学者はそのような様子を見て、「このイエスは、罪人たちを受け入れて、一緒に食事をしている。」と文句を言いました。すると、イエス様が例え話を通して彼らに教えました。

(1) イエス様は、失われた一人が見つかるまで、捜し歩いてくださいます。

(2) イエス様は、失われた一人をすべてのように愛してくださいます。